専大スポーツ
No.371
大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からアクセス）でご確認ください
専大スポーツ編集部 web（http://sensupo.web.fc2.com/）でも大会結果を配信しています

得点を決め、雄たけびを上げる田添＝決勝戦、撮影・木村健人（商3）

全日本卓球選手権

混合ダブルス　田添・前田ペア

2年連続3回目V

天皇杯・皇后杯全日本卓球選手権が1月16日から22日まで、東京都渋谷区の東京体育館で行われた。大会4日目の19日に混合ダブルスの準決勝・決勝が行われ、田添健汰（商3・希望が丘高）・前田美優選手（日本生命）ペアが2年連続3回目となる優勝を果たした。

決勝では、昨年行われたリオデジャネイロオリンピックの男子団体で銀メダルを獲得した吉村真晴選手（名古屋ダイハツ）と同女子で銅メダルを獲得した石川佳純選手（全農）のメダリストペアと対戦した。

両ペアが全日本の舞台で対決するのはこれが3回目で、過去2戦は1勝1敗と互角の戦績。試合は田添・前田選手ペアが第1セットを11―3で先取し、序盤からペースを握った。第2セットは一時リードされながらも逆転し、14―12でこのセットも制した。第3、第4セットは吉村選手・石川選手ペアが連取し、試合はフルセットまでもつれたが、最終セットを田添・前田選手ペアが11―6で制し、セットカウント3―2で勝利。大会連覇を達成した。

田添は持ち前の低めに刺さるフォアドライブでメダリスト同士のペアを圧倒。表彰式後に行われた記者会見では前田選手とともに「厳しい試合が多かったが、優勝できてうれしい」と喜んだ。

決勝戦を振り返り、「相手はメダリストだったので、自分は向かっていくだけだと思った。1、2セット目から思い切ったプレーを心がけ、勢いに乗れたのがよかった」と語り、今後の目標を聞かれると「3連覇を目指します」と力強く宣言した。

22日には世界卓球選手権（5月29日～6月5日、ドイツ・デュッセルドルフ）の代表メンバーが日本卓球協会から発表され、田添・前田選手ペアが混合ダブルス日本代表に選出された。世界の舞台に羽ばたく田添に注目だ。

（飛田翼・文2）

トロフィーを手にする田添（右）と前田選手＝撮影・木村

女子シングルス　鈴木　自己最高5位

女子シングルスでは鈴木李茄（商4・青森山田高）と安藤みなみ（商2・慶誠高）がそれぞれ自己最高の成績を残した。

鈴木は初のランク入りとなる5位で大会を終え、「大学生として最後の全日本なので、大学に恩返しできるように頑張ろうと思っていた。これまで1回もランク入りできていなかったが、今回準々決勝まで進めたことは満足している。大会を通してフルセットになる試合が多かったが、勝ちたいという気持ちを出して粘り強く戦えたことが結果につながった」と大会を振り返った。

鈴木は6年連続出場でこれまでの最高成績は高校2、3年時の5回戦進出。

安藤ベスト16「リオ銅」破る

安藤は自身初となるベスト16入りを果たした。5回戦ではリオ五輪団体銅メダリストの伊藤美誠選手（スターツSC）と対戦。試合前日のインタビューでは「相手はメダリスト。思い切ってプレーできればいい」と話していたが、安藤は強い回転がかかるがコントロールの難しい粒の高いラバーを使い、リターンで伊藤選手を惑わすと、試合中盤からは主導権を握った。相手のミスを誘発し、4―2で勝利すると、専大生がメダリストを破ったニュースは各種メディアでも取り上げられた。

続く6回戦で敗れたが、「初めてベスト16に入ることができてよかった。全日本でここまでできたのは自信になった」と話し、「次は大学の試合でも結果を残したい」と意気込みを語った。安藤は4年連続出場で高校2、3年時の4回戦進出が過去最高。（飛田）

得意のフォアハンドでコースを狙う鈴木＝6回戦、撮影・木村

スピードスケート　3年ぶり部門優勝

1500メートルは表彰台を独占

日本学生氷上競技選手権・スピード部門＝1月6～9日、北海道・苫小牧市ハイランドスポーツセンター

全7種目が行われ、順位ポイントの合計で競う学校対抗で専大が、2位以下に大きく差をつけて部門優勝を達成。2014年以来となる3年ぶりの栄冠を手にした。

大会初日の500メートルで辻本一史（経営2・帯広農高）が3位に入賞し口火を切ると、翌日の500メートルで土屋良輔（経営4・嬬恋高）が、100メートルで近藤太郎（経営4・駒大苫小牧高）がそれぞれ優勝した。土屋は6分36秒65でリンク記録と大会記録を更新し、近藤も1分11秒79でリンク記録を更新する快走だった。

5000メートルでは小川翔也主将（文4・池田高）が3位と続いた。

3日目の1500メートルでは土屋が5000メートルに次いで2種目の優勝。近藤が2位、池田崇将（経営4・白樺学園高）が3位と続き、専大が表彰台を独占した。

最終日には、チームパシュートで小川・岩下稜（経営2・小海高）・土屋組が2位。2000メートルリレーでは辻本・嶋田英爾（経営1・白樺学園高）・今野明星（商4・池田高）・池田組が3位となり、チーム力の高さも見せつけた。

スピード部門優勝という結果に小川主将は「春から優勝を目指してどこにも負けないくらい練習を重ねてきたつもりだったので、その成果が出てうれしい。競技中も部員一丸となって応援し、チームで戦っていることを感じられた。このチームで優勝できてよかった」と喜びもひとしおだった。（飛田）

前嶋孝監督（前列中央）と優勝を喜ぶ部員たち＝撮影・斉藤葵（商3）

1500メートルの表彰式で。左から近藤、土屋、池田＝撮影・斉藤

軽快な滑りでコーナーを抜ける土屋＝5000メートル、撮影・飛田

国際大会出場選手

◇フェンシング部
原田圭佑（経済2・岩国工高）ジュニアワールドカップ・フィンランド大会（2月4、5日、フィンランド・ヘルシンキ）
菊池小巻（商2・翔陽高）ジュニアワールドカップ・オーストリア大会（1月28、29日、オーストリア・メードリング）／シニアワールドカップ・ポーランド大会（2月3～5日、ポーランド・グダニスク）

Sports カレンダー

◇アーチェリー部
▽全日本学生室内個人選手権
2月15、16日（千葉市・千葉ポートアリーナ）
◇卓球部
▽東京選手権
3月1～5日（渋谷区・東京体育館）